

## 経口的切除術における頭頸部用鉗子の効果的な使用法

### 【はじめに】

内視鏡機器の進歩に伴い、頭頸部癌が早期に指摘される機会が増えてきている。中でも中咽頭癌や下咽頭癌は耳鼻咽喉科・頭頸部外科医のみならず、上部消化管内視鏡を施行された際に消化器内視鏡医からの指摘もされる。現在、早期の中・下咽頭癌に対して経口的切除術が行われるようになってきているが、そのための手術機器の整備は開発途上の状況である。

今回、経口的切除術のための手術用器具の一つとして、ELPS(Endoscopic Laryngo-pharyngeal Surgery)用のストレート鉗子を開発した。

### 【頭頸部用鉗子】

頭頸部用鉗子は、主として経口的に咽頭・喉頭の手術操作を行うために用いる。本機器は、ジョーインサート・絶縁皮膜付シース・ラチェット付ハンドルからなり、分解可能で、オートクレーブ滅菌対応である。ELPS で使用されることが多い彎曲したデバイスは取り扱いが難しく、消化器内視鏡とそれらの手術機器が干渉するため手技習得が難しいとも言われていることから、今回、シースは直線型とした。

狭いワーキングスペースである咽喉頭の手術部位で右側と左側に対応するために把持部を片開として、繊細な操作を可能とした。さらに、ハンドルに回転機構を持たせることで鉗子先端の方向を微細に調整できるため、より的確な方向から把持することができ、かつ、より良い術野展開が可能となっている。



### 【実際の使用方法】

早期の下咽頭癌切除の場合、咽頭の展開機器(彎曲型または直線型喉頭鏡)にて腫瘍全体が十分に観察できる術野を展開する。上部消化器内視鏡を用いて、腫瘍の範囲を詳細に観察して切除範囲を決定する。電気メスと今回開発した頭頸部用鉗子を用いて切除を行う。適切な把持をしてカウンタートラクションがかけられることで、より安全かつスムーズな手術操作が行えるようになった。

有効長 200 mmであり、中咽頭・下咽頭から肛門側は頸部食道の一部まで操作が可能な長さとなっている。頭頸部用鉗子は展開機器の彎曲型または直線型を問わず下咽頭全域の操作が可能である。中咽頭、喉頭や頸部食道の一部を操作する場合は展開機器や鉗子類の挿入方法に工夫が必要である。

#### 【まとめ】

頭頸部用鉗子は経口的切除術における有用な器具である。また、経口的手術のみならず頸部の内視鏡下手術などへの応用も可能と考えられる。

感想: 国立がん研究センター 東病院 頭頸部外科 富岡 利文

---

製造販売元

**株式会社平田精機**

〒273-0128 千葉県鎌ヶ谷市くぬぎ山 2-10-17

販売元

**ホープ電子株式会社**

〒273-0128 千葉県鎌ヶ谷市くぬぎ山 2-10-17

TEL 047-389-5755

URL <http://www.hope-denshi.co.jp>